

(様式1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 令和 2年 12月 28日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3471502447		
法人名	佐々木産業有限会社		
事業所名	グループホーム あげぼのあゆみホーム		
所在地	広島県福山市曙町五丁目5番25号 084(954)5704		
自己評価作成日	令和2年11月30日	評価結果市町受理日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/34/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=3471502447-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	一般社団法人広島県シルバーサービス振興会
所在地	広島市南区皆実町一丁目6-29
訪問調査日	令和2年12月14日

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点（事業所記入）】

入居者のこれまでの生活の延長上にこのホームがあるという認識の下、入居者目線でともに暮らしているという気持ちを大切にしている。建物は、平屋で天井が高く開放感があり家庭的で、外には畑で季節の野菜を作りそれを一緒に料理して食べている。南海トラフ地震・水害対策として敷地内に鉄筋の避難所を作り、訓練・備品等の充実に努めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

開設から17年が経過し、まだ地域にグループホームという認識の定着が薄い時期から、事業所がどういうところであるか、認知症についてなど説明を続け、地域との交流を重視し取り組みを積み重ねて関係性の構築に尽力してきた事業所である。災害に対する意識が高く、南海トラフ地震や日々起こり得る水害や地震等の災害に対し、敷地内に4mの高台の避難場所を建築しすぐに避難ができる環境を整備している。避難訓練も地域の方の参加や隣接する法人事業所間での合同訓練、避難経路や緊急連絡体制、発電機や備蓄の整備と充実させている。支援においても利用者一人ひとりに目を向け、個々で価値観が違う事を意識し日々の実践に努めている。入浴日以外の利用者全員に毎日清拭を行い、利用者は気持ち良く過ごせており、併せて全身観察が行え体調管理にも相乗効果が得られている。

自己評価	外部評価	項目(さくらユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	毎日の朝礼時・職員と一緒に理念を読み上げ認識の確認を行っている。定期的に、職員と管理者は面談を行うことで、理念を共有して実践に繋がるように努めている。	基本理念は職員同士で話し合い、一人ひとりの気持ちに寄り添い、能力に合わせ自立に向けた支援を掲げている。優しい声かけや思いやりの基準が価値観であり、個々によって異なることを理解し意識することを大切にしている。職員は理念に沿って個人目標を立て半年ごとに振り返り資質の向上に努めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	運営会議に町内会副会長、老人会会長民生委員、町内会組長・地域包括支援センター、市役所担当課に参画してもらおう。防災訓練に近くの町内会員と一緒に実施している。	会長が自治会長を務めるなど地域との関わりを深く重ね築いてきた経緯があり地元からの認知度も高く交流を基に関係を発展してきた。今年はコロナ禍で多くが実施困難であるが、バラ祭りではブリガリアのバラの女王訪問が毎年の大きな楽しみであり、地域行事、町内水路掃除、避難訓練など様々な活動がある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	入居者と作品作りを行い、文化祭出品参加し、地域の方々に毎年好評される。(町内会盆踊り・バラの女王の来所など中止) グループホーム農園で、野菜の栽培・干し柿・切り干し大根づくりを行う。町内水路清掃に参加する。(今年は中止)		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実績、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	介護用具を選定する際、出席者より建設的意見を聞き、参考にして入居者に説明をして入居者の理解を得ている。コロナ禍で、運営推進会議が行えていないという実情がある。	毎回テーマを決め実施している。メンバーは家族代表をはじめ、町内会副会長や老人会会長、町内会組長、地域包括支援センター、市担当課など幅広い参加がある。排泄ケアに力を入れていることやその取り組みを紹介し、感染症のアドバイスで次亜塩素酸の拭き掃除に布を使い捨てにすることを取り入れた例がある。	
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	災害時の避難に関することなどを市の担当者と相談している。	運営推進会議で担当課の職員と相談や意見交換が適宜なされている。会長が市のラジオ体操副会長を務め、100歳体操と組み合わせた企画の検討を進めているなど市の高齢化対策にも興じた取組みが展開されている。生活保護受給者についても保護課と連携しサポートしている。	

自己評価	外部評価	項目(さくらユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	日頃から業務の中で、スタッフ間でコミュニケーションを図り、身体拘束に繋がらないか、代替え案はないかを考えケアに取り組んでいる。また、3ヶ月に1回身体拘束禁止委員会を行い、ケアの振り返り、身体拘束の再確認を行っている。	夜間ベッドを低床にし、ベッド下にランタンを置き足元を見やすくするなど工夫し、センサーマット使用も期限を設け個人のパターンを把握後取り除き対応している。スピーチロックを含め課題はあるが、管理者や主任が都度注意を行い、職員同士もお互いに指摘し合える関係がある。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	職員が虐待防止の研修会に参加するなどして再確認し、学んだことを職員会議で共有している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	入居者の1名が後見人制度を活用し補佐人による金銭管理などの支援を受けている。個々の必要性に応じて活用できるように支援を行っていきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約の締結・解約・改定時は、入居者やご家族に説明だけでなく、意見や疑問を聞き納得してもらえるよう努めている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	コロナ禍ではあるが、利用料はできるだけご家族の方がホームまで支払いにきていただき意見や、要望を聞く機会を持つようにしている。また、日常の中で入居者の発した言葉を大切にケアに活かせるように心がけている。	日常の中の会話の中で利用者が話す内容を注意深く捉え、記録や付箋に残しユニット会議で話し合い希望を実現できるように努めている。家族には面会時や電話連絡をはじめ、利用料の支払いを意図的に事業所に持参いただき足を運んでもらう機会に繋げており、直に意向や思いを確認できるようにしている。	

自己評価	外部評価	項目(さくらユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。</p>	<p>毎月全体会議を設け運営方針の説明、現場の意見を聞く機会を設けている。</p>	<p>毎月の全体会議には会長や社長の参加があり、普段からの職員の意見や仕事に取り組む姿勢など把握している。業務やケアの実情を踏まえ意見交換の機会となっている。管理者も業務の中で都度話す機会を設け職員の思いを汲んでいる。遅出の時間の調整や退職金についてなど職員の意見が反映されている。</p>	
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。</p>	<p>介護度の軽減・努力者に対する支援策がある。定期的に評価基準を設け、給料支援策がある(入社6年目より3年毎)</p>		
13		<p>○職員を育てる取組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>	<p>年に1回研修に参加出来る機会を与えている。働きながら、通信教育を受けられるように支援をしている。(資格取得支援がある)定期的にレポートを提出してもらいその時のケアに対する考え方や力量を把握するように努めている。管理者と頻回に話し合い職員の様子を聞いて把握するように努めている。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。</p>	<p>管理者や職員が、他の施設の職員と交流を持つ機会をつくるために、研修に参加の声かけと共に費用負担を行っている。</p>		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。</p>	<p>事前面接を行い困りごとや不安なこと、要望などを把握。入居後はホームでの生活になじめるようにコミュニケーションを深めている。初期に現れやすい帰宅願望に対しては親身に傾聴。会話や暮らしぶりなどを介護支援記録に詳細につけ、課題やニーズを明らかにして、親身なケアの実践により信頼関係の構築に努めている。</p>		

自己評価	外部評価	項 目(さくらユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	ご家族と事前面談を行うとともに、入居後早い段階での面談、ご家族の要望・本人の希望する生活を支援できるように、ケアプランに反映するとともに、共に支えていく立場での関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	ホームに見学、申込時に他事業所のサービスについても説明をし、ご家族が適切なサービスが選択できるように支援している。また、本人が何を必要としているか。今出来る事をそのまま維持していけるような支援は何であるかを見極めるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	コミュニケーションをよく図り、生活の中で人生の先輩として敬う気持ちを忘れず共感的に受容するように努めている。また、能力を活かして、自分で出来る事はしてもらい、それが出来た時には「出来ましたね」などと、出来たことを互いに喜び合う関係を築けるように努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	ホームでの様子は記録に残し職員同士の共有はもちろん、ご家族にも実情を伝え理解と協力を求め、共に課題解決に向けて支援しあう関係づくりに努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	コロナ禍の影響で、今までのように自由にご家族等との面会はままならない状況ではあるが、窓越し対面等で、会えるように支援をしている。外出を控えている状況なので馴染みの場所に行くことは現在では難しい。	コロナ禍の影響にて人に会うことや出かけることでの馴染みの関係を繋げる支援は難しくなっているが、中でも菜園で収穫した大根を切り干し大根にしたり干し柿づくりなど利用者の生活の馴染みを活かした取り組みの工夫や感染対策を講じて花見のドライブを行うなどできる限りのなじみの継続支援に努めている。	

自己評価	外部評価	項目(さくらユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	入居者同士がお互いを気遣い合い、支え合う関係が出来るよう、生活の場面で意識的に取り組んでいる。認知症の周辺症状で攻撃的な症状が出ている入居者には席の距離などに配慮するなど、その都度対応を行っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	契約終了の殆どは病気による長期入院のケースが多く、入院中はお見舞いを行うなど、ご家族の相談や支援をして関係性の持続に努めている。		

Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日常の中で本人の本音をくみ取れるように努めている。意思疎通が困難な方は、職員で意見を出し合って決めている。	入所時に詳しく聞き取りやアセスメントを実施し、個々の暮らし方や生活習慣を把握している。日常の中で本人との会話に耳を傾けることや、本音の部分まで聞きとりができるように気の合う職員との関わりを意識的に作り思いや意向を汲み取っている。畑に思いがある方に介護計画に取入れ実践するなど反映がある。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居時にご家族より生活歴などを聴きとっている。また、日々の生活の中で本人に昔話として、これまでの生活や趣味・嗜好を聞き出すように努めている。これまでサービスを利用していたら、そこから情報も貰っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	介護支援経過記録により、一日の生活状況ADL・バイタルをはじめ、本人の発言や心理状態が具体的に把握できるようにしている。朝の申し送りや、職員が把握できるようにしているとともに、「業務日誌」を業務に入る時には必ず目を通し、利用者の状態を把握している。		

自己評価	外部評価	項 目(さくらユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	常にスタッフは情報を共有し、本人には日常の中で話し合い、ご家族には来所時に話し合い持ち、医師には往診時意見を貰い、三カ月に1度カンファレンスに活かしている。	日頃より収集した利用者の思いや家族の意向など情報を全体で共有しユニット会議で話し合い検討を行っている。毎月モニタリングを定期的実施しサービス計画に活かしている。往診時に主治医の意見を確認し、必要に応じて看護師とも連携が図られており、医療と連携した介護計画の反映がなされている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	毎日、介護支援経過記録・申し送りノートに記録し、全職員目を通して情報を共有している。ケアプランに基づいてのサービスの実施状況とその結果、本人の言葉・生活状況を記入。記録に基づき課題・ニーズを明らかにし職員間で話し合っケアの改善や工夫に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	個別のニーズを大切に考え、個別の状況に合わせた支援をしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	町内会の行事に参加する等、地域との繋がりながら支援を行うようにしている。今年は、コロナ禍で中々難しい面が多かった。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	入居時にご家族の希望の上かかりつけ医を決めている。ホームの連携医とは往診などで毎週相談する機会がある。入居前からの主治医の時には、受診時に手紙で関係を築ける様になっている。どちらも24時間対応してもらえる体制を作っている。	入所以前のかかりつけ医を主治医とすることも可能であるが、協力医が往診で毎週来所される適宜診てもらえる体制であることから安心感も高く協力医に変更される方が多くある。皮膚科の往診があり、専門科にも家族協力を得ながら随時受診ができ、必要に応じて職員も同行しサポートを行っている。	

自己評価	外部評価	項 目(さくらユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	連携医の看護師や訪問看護師にユニット内の状況や個別の状態を報告・相談し、指示を仰いでいる。また、24時間電話でも相談できる体制を整えている為、看護師と入居者の状態を密に共有可能である。経過や情報はご家族とも連絡し意見を貰っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には職員が付き添い、情報提供を行い、入院中はご家族の不安等の相談に応じたり近況報告を伺っている、病院関係者とは電話で情報交換や相談をし連携をとるようにしている。退院時は病院よりホームでの生活上の注意点の情報を貰っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	入居時に、重度化した場合や終末期について説明を行い、同意を得ているが、状態の変化がある時には、ご家族と相談しながら出来る限り住み慣れたホームで支援していけるように、医療関係者の協力を得ている。	入居時に重度化した場合の対応に係る指針を説明している。状態の変化を常にみていき、看取りの必要な時期では希望に応じ受ける体制であり、今年度初めて看取りを実施した。毎年外部研修も参加しているが、職員もユニットで勉強会を行うなど、4週間の看取りの期間を経験し職員の意識も変わり成長が実感できた。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	入居者の急変や事故発生時に対応するために、ユニット会議・全体会議で職員が確認を行い行動出来るようにしている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	年に2回防災訓練を実施し、職員・入居者全員参加で行っている。例年だと、地域の方にも参加してもらい行っているが、今年はコロナ禍でホームだけで行った。地震・水害対策の避難所があるので、訓練を通して職員と入居者が避難出来るようにしている。	避難経路と緊急連絡簿を事務所に掲示し、ハザードマップを更衣室に貼り日頃から確認や周知を図っている。事業所は水害が想定される地域であることから、自主整備で建物裏に鉄骨の避難所を設置し命の安全を優先した対策が採られている。法人内事業所との避難訓練や地域防災訓練も管理者が参加し備えを充実させている。	

自己評価	外部評価	項目(さくらユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	ひとり一人の性格・特性・生活歴を理解し個別に入居者に合った声掛けを行い個人の人格を尊重するように常に心がけて対応している。	事業所内で年2回接遇やプライバシー保護の研修を実施している。利用者一人ひとりに感じ方も違うことを意識し、職員の価値観を押し付けないように、全員で話し合いをする機会を設けるなど意識統一に尽力している。おやつ飲み物を選ぶなど個人の選択が行える支援も実践している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	日常の中で、入居者の方々とコミュニケーションを図りながら、希望や思いを聞きだし寄り添えるように努めている。手作りデイには、何が食べたいかをリクエストしてもらい、決めてもらっている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	その日の入居者の方の状態に合わせて、寝坊がしたい方や食事が今食べたくない方・入浴が億劫な方・寝たくない方等、希望に添って過ごしてもらえるように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	身だしなみを整える時には鏡を見てから、化粧水でお肌の手入れを毎朝行っている。また、顔ぞりを定期的に行い、髪留めなども使用し整髪を整えおしゃれが出来るように支援している。行事には、その方にあったおしゃれな服で過ごして頂けるように支援をしている。購入する時には、その方の好みを把握して似合うものを選んでる。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	手作りデイには、食べたいものをリクエストしてもらい、一緒に作ることで楽しみになる取り組みを行っている。また、ホームの畑で野菜を育て収穫して、切り干し大根・干し柿づくりを入居者と一緒に行うことでIADLが維持でき、季節を共に感じられている。	朝食は手作りであるが、昼、夜は調理された食材を湯銭で温め盛り付けを行い提供している。毎週土曜日は手作り料理の日としており、菜園で収穫した野菜と一緒に調理するなど飽きずに楽しみとなる食事の提供がなされている。外食は難しい状況であるが、食べたい物のリクエストと一緒に作るなど取り組みがある。	

自己評価	外部評価	項 目(さくらユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。</p>	<p>必要な栄養を摂取出来るよう、刻み食、ミキサー食で提供している。食事量を少ない方には、栄養補助食品を提供している。水分量を1日最低1000mlを目安に摂取出来るように支援をしている。摂取が出来ない人には、飲み物の工夫をしている。</p>		
42		<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。</p>	<p>毎食後、口腔ケアを行っている。かかりつけ歯科医より口腔ケアの指導を受けて、その方に合った口腔ケアを行うようにしている。</p>		
43	16	<p>○排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。</p>	<p>排泄チャートの記録をもとに入居者の排泄パターンを把握し、入居者に合わせた個別対応を行っている。排泄動作も個別を把握して、出来る事はして頂き、できない所はさりげなく支援を行っている。</p>	<p>一人ひとり排泄の時間や尿意を調べ、排泄チャートを使用し把握に努めている。水分量の摂取も日常値を個々に摂れるように促し管理していくほか、排泄動作や方法、癖なども記録にとって全員が把握し、できるだけ自立ができる排泄支援を個別に取り組んでいる。座位での排泄を行うことも意識して実践している。</p>	
44		<p>○便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。</p>	<p>排泄チャート・食事量・水分量を記録し、入居者に合わせた対応を決めている。生活の中で、体操、レクリエーション・お手伝い等で体を動かすように工夫をしている。</p>		
45	17	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている。</p>	<p>入浴は入居者の希望に応じ週2～3回行っており、入浴をしない日にも全員清拭を行い、清潔保持出来るように支援をしている。季節に合わせて、入浴剤を選んでもらい楽しめるように支援している。</p>	<p>週2～3回の入浴を提供し、入浴日以外の利用者全員も毎日清拭を行い衛生保持に努めている点が特化している。結果、利用者は毎日を気持ち良く過ごすことができ、併せて全身の観察につながり皮膚トラブルの予防や対応が迅速に行えるなど相乗効果となっている。</p>	

自己評価	外部評価	項 目(さくらユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	夜間は十分な睡眠がとれる様に一人ひとりに合ったパッドやおむつを使用し、交換時間も職員で意見交換してベストなタイミングで行うようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりを使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	服薬の際には名前の確認、日付、時間の間違いがないかチェックし、一人ひとり口の中に薬が残っていないか飲み込むまで見守りをしている。気になる症状があればかかりつけ医に相談している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	歌の好きな人には歌のビデオを観て唄ってもらったり、裁縫の好きな人には雑巾づくりや布を切るのを手伝ってもらったりと、一人ひとり得意なことを活かせるよう支援している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	個別の状態に合わせて、外を散歩したり職員と買い物に行ったり、ご家族と自宅に帰ったり、外食したり、墓参りに行かれたりしている。現在は、外出が出来ないのでウッドデッキや菜園に出での気分転換や日光浴を行っている。	10月には近隣にあるバラ公園にドライブに行くことで、季節感を感じバラのいい香りを楽しむことが恒例である。散歩がてら近くの店に買物に行くことや、家族と自宅へ帰宅や外食など日常的に行っていた。現在は自粛傾向であるがウッドデッキや菜園に出で外気に触れ過ごせることで気分転換にもなっている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	ご家族よりお金を預かっている方は、入居者と相談しながら好みの物を職員が代行して購入している。コロナ禍で外出することが難しくご本人がお金を使うことが出来ていない。		

自己評価	外部評価	項 目(さくらユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	入居者の1名は携帯を持っているので、自由に電話をされている。他の入居者の方が希望されれば、支援をする。希望される方は年賀状をご家族に出す支援をしている。		
52	19	○居心地の良い共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	リビングには天窓から日光が差し込み、食卓を明るく照らしている。ウッドデッキがあり、風を感じたり、日光を直接浴びることもできる。外には畑があり、季節ごとに野菜を収穫することもでき、また、それを使用して料理をしている。	建物は広くゆったりした空間であり、天井も高く設けられ、天窓からは心地よい採光が得られ明るく穏やかに過ごせる環境となっている。テレビ前にソファがあり、畳スペースもあるなど利用者の希望に合わせてくつろぐことができ、作品や行事の写真などが掲示され温かみを感じられ過ごせる生活の場となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	ご家族の写真、誕生日プレゼント・習字の作品、好きな歌の本等本人の馴染みのものを居室に置き、居心地よくなる工夫をしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	居室には、馴染みの物や家族の写真などを出来るだけ持参してもらい、自宅に近い環境を提供できるよう努力している。	居室は自宅に近い環境に近づけ本人の生活様式の継続と、動き易さや過ごし易さに配慮した動線となるよう環境整備を行っている。慣れ親しんだ家具や調度品も持参することができ、そこに本人の気に入る写真や作品が飾られている。毎年誕生日の写真も更新され利用者それぞれの個性ある居室に彩られている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	トイレの場所などわかりやすく表示し、入居者の動線に障害となるものを置かないようにしている。また、日付を大きく表示したり、季節に合わせた掲示物を貼るなどして季節や時間を自然と感じられるようにしている。		

V アウトカム項目(さくらユニット) ← 左記()内へユニット名を記入願います

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ毎日のように <input type="radio"/> ②数日に1回程度 <input type="radio"/> ③たまに <input type="radio"/> ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	<input type="radio"/> ①大いに増えている <input type="radio"/> ②少しずつ増えている <input type="radio"/> ③あまり増えていない <input type="radio"/> ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> ②職員の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③職員の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③利用者の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> ②家族等の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③家族等の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどできていない

自己評価	外部評価	項目(ひまわりユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	毎日の朝礼時・職員と一緒に理念を読み上げ認識の確認を行っている。定期的に、職員と管理者は面談を行うことで、理念を共有して実践に繋がるように努めている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	運営会議に町内会副会長、老人会会長民生委員、町内会組長・包括支援センター、市役所担当課の参画してもらうようにしている。防災訓練に近くの町内会員と一緒に実施している。(コロナ禍なので、事業所だけで今年を行う。)		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	入居者と作品作りを行い、文化祭出品参加し、地域の方々に毎年好評される。(町内会盆踊り・バラの女王の来所など中止) グループホーム農園で、野菜の栽培・干し柿・切り干し大根づくりを行う。町内水路清掃に参加する。(今年は中止)		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実績、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	介護用具を選定する際、出席者より建設的意見を聞き、参考にして入居者に説明をして入居者の理解を得ている。コロナ禍で、運営推進会議が行えていないという実情がある。		
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取組んでいる。	災害時の避難に関することなどを市の担当者と相談している。		

自己評価	外部評価	項目(ひまわりユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	日頃から業務の中で、スタッフ間でコミュニケーションを図り、身体拘束に繋がらないか、代替え案はないかを考えケアに取り組んでいる。また、3ヶ月に1回身体拘束禁止委員会を行い、ケアの振り返り、身体拘束の再確認を行っている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	職員が虐待防止の研修会に参加するなどして再確認し、学んだことを職員会議で共有している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している。	利用者の1名が後見人制度を活用し保佐人による金銭管理などの支援を受けている。個々の必要性に応じて活用できるように支援を行っていきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約の締結・解約・改定時は、利用者やご家族に説明だけでなく、意見や疑問を聞き納得してもらえよう努めている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	コロナ禍ではあるが、利用料はできるだけ家族の方がホームまで支払いにきていただき意見や、要望を聞く機会を持つようにしている。また、運営推進会議に家族・入居者の参加を得て直接意見等を聞く機会を持っている。そして、日常の中で入居者の発した言葉を大切にしてケアに活かせるように心がけている。		

自己評価	外部評価	項目(ひまわりユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	毎月全体会議を設け運営方針の説明、現場の意見を聞く機会を設けている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	介護度の軽減・努力者に対する支援策がある。定期的に評価基準を設け、給料支援策がある(入社6年目より3年毎)		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	年に1回研修に参加出来る機会を与えている。働きながら、通信教育を受けられるように支援をしている。(資格取得支援がある)定期的にレポートを提出してもらいその時のケアに対する考え方や力量を把握するように努めている。管理者と頻回に話し合い職員の様子を聞いて把握するように努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	管理者や職員が、他の施設の職員と交流を持つ機会をつくるために、研修に参加の声かけと共に費用負担を行っている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	事前面接を行い困りごとや不安なこと、要望などを把握。入居後はホームでの生活になじめるようにコミュニケーションを深めている。初期に現れやすい帰宅願望に対しては親身に傾聴。会話や暮らしぶりなどを介護支援記録に詳細につけ、課題やニーズを明らかにして、親身なケアの実践により信頼関係の構築に努めている。		

自己 評価	外部 評価	項 目(ひまわりユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	家族と事前面談を行うとともに、入居後早い段階での面談、家族の要望・本人の希望する生活を支援できるように、ケアプランに反映するとともに、共に支えていく立場での関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	ホームに見学、申込時に他事業所のサービスについても説明をしご家族が適切なサービスが選択できるように支援している。また、本人が何を必要としているか。今出来る事をそのまま維持していけるような支援は何であるかを見極めるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	コミュニケーションをよく図り、生活の中で人生の先輩として敬う気持ちを忘れず共感的に受容するように努めている。たま、能力を活かして、自分で出来る事はしてもらい、それが出来た時には「出来ましたね」などと、出来たことを互いに喜び合う関係を気付けるように努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	ホームでの様子は記録に残し職員同士の共有はもちろん、家族様にも実情を伝え理解と協力を求め、意見を聞きながら共に課題解決に向けて支援しあう関係づくりに努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	コロナ禍の影響で、今までのように自由に家族等との面会はままならない状況ではあるが、窓越し対面等で、会えるように支援をしている。外出を控えている状況なので馴染みの場所に行くことは現在では難しい。		

自己評価	外部評価	項目(ひまわりユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	利用者同士がお互いを気遣い合い、支え合う関係が出来るよう、生活の場面で意識的に取り組んでいる。攻撃的な利用者とは席を離す等、その都度対応を行っている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	契約終了の殆どは病気による長期入院のケースが多く、入院中はお見舞いしたり、ご家族の相談や支援をして関係性の持続に努めている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日常の中で言葉だけでなく表情などから本人の本音をくみ取れるように努めている。意思疎通が困難な方は、職員で意見を出し合って決めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居時にご家族より生活歴などを聴きとっている。また、日々の生活の中で本人に昔話として、これまでの生活や趣味・嗜好を聞き出すように努めている。これまでサービスを利用していたら、そこから情報を貰っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	介護支援経過記録により、一日の生活状況ADL・バイタルをはじめ、本人の発言や心理状態が具体的に把握できるようにしている。朝の申し送りや、職員が共有できるようにしているとともに、「業務日誌」を業務に入る時には必ず目を通し、利用者の状態を把握している。		

自己評価	外部評価	項目(ひまわりユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	常にスタッフは情報を共有し、本人には日常の中で話し合い、ご家族には来所時に話し合い持ち、医師には往診時意見を貰い、三カ月に1度カンファレンスに活かしている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	毎日、介護支援経過記録・申し送りノートに記録し、全職員目を通して情報を共有している。ケアプランに基づいてサービスの実施状況とその結果、本人の言葉・生活状況を記入。記録に基づき課題・ニーズを明らかにし職員間で話し合っケアの改善や工夫に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	個別のニーズを大切に考え、個別の状況に合わせた支援をしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	町内会の行事に参加する等、地域との繋がりながら支援を行うようにしている。今年は、コロナ禍で中々難しい面が多かった。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	入居時にご家族の希望の上かかりつけ医を決めている。ホームの連携医とは往診などで毎週さ相談する機会がある。入居前からの主治医の時には、受診時に手紙で関係を築ける様にしている。どちらも24時間対応してもらえる体制を作っている。		

自己評価	外部評価	項目(ひまわりユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	連携医の看護師や訪問看護師にユニット内の状況や個別の状態を報告・相談し、指示を仰いでいる。また、24時間電話でも相談できる体制を整えている為、看護師と利用者の状態を密に共有可能である。経過や情報はご家族にも連絡し意見を貰っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には職員が付き添い、情報提供を行い、入院中はご家族の不安等の相談に応じたり近況報告を敷いている、病院関係者とは電話で情報交換や相談をし連携をとるようにしている。退院時は病院よりホームでの生活上の注意点の情報を貰っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	入居時に、重度化した場合や終末期について説明を行い、同意を得ているが、状態の変化がある時には、ご家族と相談しながら出来る限り住み慣れたホームで支援していけるように、医療関係者の協力を得ている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	利用者の急変や事故発生時に対応するために、ユニット会議・全体会議で職員が確認しあい、行動出来るようにしている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	年に2回防災訓練を実施し、職員・利用者全員参加で行っている。例年だと、地域の方にも参加してもらっているが、今年はコロナ禍でホームだけで行った。地震・水害対策の避難所があるので、訓練を通して職員と利用者が避難出来るようにしている。		

自己評価	外部評価	項目(ひまわりユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	ひとり一人の性格・特性・生活歴を理解し個別に利用者に向けた声掛けを行い個人の人格を尊重するように常に心がけて対応している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	日常の中で、利用者の方々とコミュニケーションを図りながら、希望や思いを聞きだし寄り添えるように努めている。手作りデイには、何が食べたいかをリクエストしてもらい、決めてもらっている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	その日の利用者の方の状態に合わせて、朝寝がしたい方や食事が今食べたくない方・入浴が億劫な方・寝たくない方等、希望に添って過ごしてもらえるように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	身だしなみを整える時には鏡を見てから、化粧水でお肌の手入れを毎朝行っている。また、顔ぞりを定期的に行い、髪留めなども使用し整髪を整えおしゃれが出来るように支援している。行事には、その方にあったおしゃれな服で過ごして頂けるように支援をしている。購入する時には、その方の好みを把握して似合うものを選んでいきます。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	手作りデイには、食べたいものをリクエストしてもらい、一緒に作ることで楽しみになる取り組みを行っている。また、ホームの畑で野菜を育て収穫して、切り干し大根・干し柿づくりを利用者と一緒に行うことでIADLが維持でき、季節を共に感じられている。		

自己評価	外部評価	項目(ひまわりユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	必要な栄養を摂取出来るよう、個別におにぎりにしたり、ふりかけをかけたリ、刻んだり、ミキサーにしたり、ワンプレーにしたり食べやすいように工夫をしている。食事量を少ない方には、好みの味の栄養補助食品を提供している。水分量は個別ではあるが目安として1000mlを摂取出来るように支援をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後個別の口腔ケアを行っている。かかりつけ歯科医より口腔ケアの指導を受けて、その方に合った口腔ケアをおこなうようにしている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	その人の能力や状態に応じて、出来るだけ紙パンツ・テープ止めを使用せず、綿パンツで過ごせるように支援している。そうでない場合でも排泄パターンや習慣に合わせた適切にトイレに行く支援を行い、出来るだけ失敗しないように支援をしている。排尿の計量も行うようにして適切な誘導・夜間の安心が出来るようにしている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	排泄チャート・食事量・水分量を記録し、利用者に合わせた対応を決めている。生活の中で、体操、レクリエーション・お手伝い等で体を動かすようにしたり、ヨーグルト・おからパウダーを食べて予防する工夫をしている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている。	利用者の希望や状況に合わせて、日数や時間帯・入浴方法などを変え、入浴を楽しんでもらえるように支援している。入浴を希望されない場合は、時間をずらしたり、日にちを変えたりし対応している。		

自己評価	外部評価	項 目(ひまわりユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々 の状況に応じて、休息したり、安 心して気持ちよく眠れるよう支 援している。	夜間は安眠出来るように、一人 ひとりの状態に合わせて、オムツ ・パッド交換等のタイミングや回 数を工夫し、定期的に見直しを行 っている。日中は、傾眠が強い場 合などは、居室で休んで頂いてい る。		
47		○服薬支援 一人ひとりを使用している薬の目 的や副作用、用法や用量について 理解しており、服薬の支援と症状 の変化の確認に努めている。	利用者が服薬している薬について は、解らない事や気をつけなくて はいけない事などを往診等であ かりつけ医に聞いている。申し送 りや会議などで薬の用法・種類を 共有し、その効果などをその都度 確認しあっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ご せるように、一人ひとりの生活歴 や力を活かした役割、嗜好品、楽 しみごと、気分転換等の支援をし ている。	ひとり一人の状況に合わせて、好 きな音楽を聴いたり、好きな番組 を観たりレクリエーションをし たり楽しみ事が出来るように支 援している。洗濯物を干したり、 畳んだり掃除したり、菜園で野 菜を育てて収穫し調理する。ま た、土曜日の献立・季節の献立を 考えてもらうように支援を行っ ている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそ って、戸外に出かけられるよう支 援に努めている。また、普段は行 けないような場所でも、本人の希 望を把握し、家族や地域の人々と 協力しながら出かけられるよう に支援している。	個別の状態に合わせて、外を散歩 したり職員と買い物に行ったり、 ご家族と自宅に帰ったり、外食し たり、墓参りに行かれたりしてい る。現在は、外出が出来ないので ウッドデッキや菜園に出での気分 転換や日光浴を行っている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの 大切さを理解しており、一人ひと りの希望や力に応じて、お金を 所持したり使えるように支援し ている。	ご家族よりお金を預かっている方 は、利用者と相談しながら好み の物を職員が代行して購入してい る。コロナ禍で外出することが難 しいでご本人が使うことが出来 ていない。		

自己評価	外部評価	項目(ひまわりユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。</p>	<p>電話や手紙のやり取りへの支援は出来ていないので、今後取り組みたい。</p>		
52	19	<p>○居心地の良い共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>ユニット内を整理整頓して、大きな字でトイレなどを表示、一日のスケジュールや日めくりカレンダーを掲示している。天窓には、カーテンをつけて光が当たらないように工夫している。季節が感じられるように毎月壁飾りを変えている。</p>		
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。</p>	<p>テレビが観たい方はテレビを観て、音楽が聴きたい方は好みの音楽を聴く、その際に音量を調整してお互いの音が干渉しないように配慮している。</p>		
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>利用者の馴染みのある品として、居室に誕生日プレゼント、仏壇や家族の遺影を置いたり、書道作品やお気に入りの絵や写真を飾ったりしている。愛用しておられた本・手鏡・机などを居室に置き居心地よく過ごしてもらえるように工夫をしている。</p>		
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>	<p>場所の表記をわかりやすくしたり、危険無く生活しやすいような配置・工夫をしている。声掛けを行い、出来るだけご本人の選択・決定を尊重できる生活が送れるように職員が支援を行っている。</p>		

V アウトカム項目(ひまわりユニット) ← 左記()内へユニット名を記入願います

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ毎日のように <input type="radio"/> ②数日に1回程度 <input type="radio"/> ③たまに <input type="radio"/> ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	<input type="radio"/> ①大いに増えている <input type="radio"/> ②少しずつ増えている <input type="radio"/> ③あまり増えていない <input type="radio"/> ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> ②職員の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③職員の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③利用者の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> ②家族等の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③家族等の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどできていない

(様式2)

2 目標達成計画

事業所名 グループホームあけぼのあゆみホーム

作成日 令和3年2月3日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	61	コロナ禍における感染防止の実施。	感染事故を起こさないためにゾーニングを維持する。	職員の動線の変更、出勤、退出時の更衣、1日3回の検温等の徹底。	1年
2					
3					
4					
5					
6					
7					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。